

ノーベル平和賞受賞



▽ことしのノーベル平和賞に、バングラデシュのグラミン銀行と創設者のムハマド・ユヌスさんがえらばれた。まずしい人の多い農村で、特に女の人に少しずつのお金を貸して、大勢の人の自立を助けたのが評価された。

▽土地や財産がなくても少ない額のお金を貸す「マイクロクレジット」のしくみをつくった。借り手を5人のグループにして、全員がお金を返せるように助け合うルールもつくったことから、きちんとお金を返す人が多い。

▽1990年代から、マイクロクレジットは世界につたわり、中東、アフリカ、アメリカなど先進国にも広まった。国連もこのしくみを広めようとよびかけている。

借り手は五人グループ 助け合って返すルール

ポン グラミン銀行をつくったユヌスさんは、どんな人？
——バングラデシュの港町、チッタゴンの生まれで、アメリカで勉強した経済学の先生だよ。

ケン どうして銀行を始めたの？
——三十年くらい前、バングラデシュでは大勢が飢えに苦しんでいた。そこでユヌスさんは勉強より、まずしい人のくらしに目を向けた。

ある日、大学の近くの村で、竹でいすをつくるソフィアさんという女性に出会った。ソフィアさんは材料の竹を仕入れるお金がなく、仲間から借りて、よい金利をはらわされていた。だからほとんどもうけられ

ない。自由に使えるお金が少しだけあれば、安く竹を買えたのに。

そこで、同じなやみのある村人四十二人にドルに換算して二十七ドルのお金を貸したのが、始まり。

ユヌスさんはしばらくして大学の先生をやめ、自分で銀行をつくったんだ。

——お金をあげるんじゃないんだ。は、ただお金をあげても、自分でがんばる気持ちのある人にかえて傷つけると考えた。人はまずしさからぬけ出す力がないのではなく、手段がないだけだ。て、いつもいっているよ。

実際、グラミン銀行では、ほかの銀行より、きちんとお金を返す人が多いよ。

借り手を五人のグループにして、全員がお金を返せるように助け合うルールにしたのも成功した。

いまでは、バングラデシュ国内で六百六十万人が借りている。干葉県の人口約六百八万人より多い人数だよ。

ジャン どうして借り手に女の人が多いの？

——バングラデシュはイスラム教の影響もあり、男の人が上に立つ社会なんだ。女の人には家で立場が弱く、食べ物が少ない時は食べずにがまん。外に働きに出るのはよるこばれないし、ふつうの銀行はお金を貸さない。

でも、グラミン銀行では、商売をつづけてお金をきちんと返すのは女の人が多いため、だんだんわかってきた。それで女の人はかり貸すことにしたんだ。

男の人は、お金が入るとすぐ遊びに使うけど、女の人は子どもや家のことを考えて使う。いまは借り手の九六パーセントが女のんだよ。

ジャン 最初は反対されたんですよ。——そう。だから、村の夫たちを集めて説得するとか、差別とたたかう大変な努力が必要だった。

働く意欲ある人たちが 商売始められる資金に

ケン じゃあ、まずしい人にお金を貸すのは不安だね。

——でも、グラミン銀行は、まずしい人たちにも働く意欲や力があることに目をつけた。土地や財産がなくても、小さな商売なら始められるようにした。そこがほかの銀行とちがうところだね。

たとえば、ニワトリを飼って卵を売る商売を始める人に、最初にニワトリを買うお金を貸す。商売がうまくつづけば、まずしさからぬけ出せるよね。この方法は「マイクロクレジット」(英語で、少ない額のお金を貸すことの意味)とよばれているんだ。貸すお金は、たとえば百ドル(二万円強)だ。

銀行はふつう、担保といって、土地や財産など、借り手がお金を返せなかったときに、かわりにもらうものを決めておく。つまり、担保にするものがない人は、お金が借りられず、新しい商売を始めにくいんだ。それに銀行は、きちんとお金を返してほしいから、安定した仕事のない人には貸したくない。